三宝寺は祇王寺の南に隣る、こゝも往生院となづく。本尊は阿弥陀仏、又瀧口入道横笛の像を安置す。開基は良鎮上人なり。歌石といふは門のまへにあり。小松内大臣の侍士瀧口時頼といふものあり、又建礼門院の曹司横笛は容顔美麗にして、旧は摂州神崎の遊君たりしが、瀧口に忍び逢ひ、つひに比翼の契りを結ぶ。瀧口世を観じて出家し、此寺に隠れしかば、横笛是まで尋来りしに、瀧口は逢ざりけり。詮かたなく此石に一首を残し、大井川千鳥の淵に身を沈め侍る。

梓弓誰とて何か恨むまし引かへすべき身にてあらねば　　横笛

〔是は当院の説にして、此歌石に彫刻せり。平家物語は、此説にかはりて、瀧口は嵯峨を出て高野へ上り、清浄心院に行ひすましてぞ居たりける。横笛もさまをかへぬるよし聞へしかば、瀧口入道一首の歌をぞ送りける。

そるまではうらみしかども梓弓まことの道にいるぞうれしき　　瀧口

返事に

そるとても何かうらみんあづさゆみ引とゞむべき心ならねば　　横笛

其後横笛は奈良の法花寺に有けるが、其思ひの積にやいく程なくはかなくなるよしを書り。